

日本フェアプレイ大賞 2021 大賞作品

学校名	札幌市立前田中学校 3年
氏名	葛西 海碧 (かさい かいせい)
タイトル	光り輝く右手

日差しが力強いある夏のこと、僕は気が付けば空を向いていた。その時の光る右手は、一生忘れないだろう。僕は、相手と接触して倒れた。でもホイッスルは鳴っていない。立とうにも立てなかった。そんな自分が一番悔しかった。そんなことを考えているとホイッスルが突然鳴った。なぜだろうと思いボールの方を見ると、僕と接触した一人がコートの外にボールを出してくれたのだ。はじめは自分のために出してくれたとは思いつかなかった。だって数的有利なら点を取れる確率が上がるからだ。ミスでもしたのかと思っていたやさき、接触した一人がこちらに向かって歩いてきた。僕の前に来て立てるように右手を貸してくれた。その時の右手は今でも忘れない。その人の手は太陽ですごく光っていて、僕はその時初めて、フェアプレーの大切さに気付いたのかもしれない。あの時、もしもあの人が僕ならば、相手のためにプレーを止めてまで手を差し出すことができたろうか。僕はなぜプレーを止めてまで右手を差し出してくれたのか聞きたくて、試合が終わり挨拶をする時に聞いてみた。勝負を決めるかぎり百対百でやらないと楽しくない。もしあそこで僕が一点決めてチームが勝っても僕は心から喜ぶことができないと言われた。僕はあの光る右手とこの言葉は、今もこれからも忘れないだろう。

日本フェアプレイ大賞 2021 審査員特別賞作品

一般応募	社会人
氏名	大塚 達也（おおつか たつや）
タイトル	ライバルの存在

高校三年間、陸上競技のやり投げに打ち込んだ。
インターハイにでるという目標を掲げて、日々の苦しい練習を乗り越えた。
私の競技生活は、チームメイトや他校のライバルの存在を抜きにしては成り立たなかった。
中でも忘れられないのが、最後の県高校総体だった。
試合用のやり、スパイク、ゼッケン、前日から入念な準備をしていたはずだった。
しかし、その日に限って、すべり止めに使う炭酸マグネシウムを忘れてしまったのだ。
当日は生憎の雨で、すべり止めがないと手の微妙な感覚に狂いが生じ、本番前の練習では全くいつもの投てきが出来ずにいた。
そんなとき、私の異変に気付いて自らすべり止めを指し出してくれたのが、ライバル校の A 君だった。
総体前の大会や記録会においては、私と A 君が勝ったり負けたりを繰り返していた。
私にとっては最も負けたくない相手であり、最も力を認めているアスリートだった。
「これ使えよ！」ぶっきらぼうな短い言葉だったが、そこは互いにベストを尽くして戦いたいとの想いが込められていた。
試合は最後まで互角の戦いで、僅か四センチの差で私が優勝した。
でも、もし A 君がすべり止めを貸してくれなければ、優勝はおろか六位以内に権利が与えられる四国大会にすら進めなかつたろう。
試合後の表彰式で、改めて感謝の気持ちを伝えた。
すると、こんな言葉が返ってきた。
「困っているヤツがいたら手を差し伸べるのが当たり前。お前と最高の勝負が出来て本当に楽しかった」と。
もし逆の立場であれば、私は A 君のような優しい行動がとれているだろうかと考える。
スポーツマンシップは、日常生活のあらゆる場面でも活かされている。
こんな時代だからこそ、大きな心で困っている人々を気遣える自分でいたいと思っている。

日本フェアプレイ大賞 2021 審査員特別賞作品

学校名	三郷市立瑞木小学校 6 年
氏名	丸山 倅歩 (まるやま ゆきほ)
タイトル	心温まる行為

私は、普段の生活の中で、とても素晴らしいフェアプレーを行っている方を見かけました。私が友達と帰っていると、近くに人がたくさんいて、ザワザワしているのを見かけました。どうしたのかと思って近くに行くと、一人の女の子がたおれていました。その子は友達と帰っていて転んでしまったそうです。かなり打ちどころが悪かった為、歩けそうになかったのです。私は、助けたい、助けたいと思っていましたが、どうしても怖くて足が動きませんでした。その時、学校に行く途中だった大人の方がすぐに来て「大丈夫？」と言って素早く対応していました。私は素晴らしいなと思いました。もうずいぶん昔のことでしたが、その行動はとても印象的で、今でも心に残っています。あの時に、私は「あんな人になりたい。」と思いました。だからその日から親切を心がけようと努力してみました。そしたら、友達が増えたり、先生から頼りにされるようになりました。そのときにフェアプレーは、誰にでも出来る、見ている人が心温まる素晴らしい行為だということを、初めて実感しました。そしてそれは、スポーツも同じです。私はテレビで剣道を見ていた時、選手はみんな勝っても喜ばないのです。それが不思議に思って昔剣道をやっていた父に聞いてみました。すると、剣道では、負けた人に失礼にならないように顔に出して喜ばないと聞きました。そういう相手の人を敬っての行為も立派なフェアプレーだと思い、そして感動しました。これからもフェアプレーを心がけて、普段生活していきたいとおもいました。これからも、たくさんの人と助け合いをしていきたいです。

日本フェアプレイ大賞 2021 審査員特別賞作品

学校名	南さつま市立内山田小 3年
氏名	前野 む月（まえの むつき）
タイトル	みなさんのおうえんのおかげだよ。

今日から、体育の時間は、とびばこです。とびばこは、あまりとくいではありません。なかなかとぶことができずに、くやしくてなみだがでそうでした。

「がんばれ、あと少し」

と言う、みんなのおうえんの声が聞こえてきました。わたしは、

「みんなが、おうえんしてくれてる。わたしもがんばらなきゃ。」

と思いました、でも、なかなかとべません。

「どうしよう。みんながおうえんしてくれているのに。」何回も思いました。みんながとべるのには、何かコツがあつたとべるのかな。

そのとき、

「今、少しとべているから、もう少し手をおくについて、足を開いたら、きっと、とべますよ」

と、先生が言ってくれて、やる気スイッチが入りました。「先生が言ったことに気を付けてとぼう。いつまでもとべないのは、いやだ。」

と思いました。

先生たちが教えてくれたことを思い出して、とぼうと思いました。手をおくにつく、足を思い切り開く、そう自分に話しながら、思いっきりとびました。ついに 5 段が飛べました。うれしさでよろこびでいっぱいになりました。

「わすれないように、もう一回。」

先生の声に、もう一度とびました。さっきよりもスムーズに 飛ぶことができました。

周りを見ると、わたしよりも先生や友達の方が、喜んでくれました。みんなのおうえんがなかったら、ぜったいとべなかったと思います。

4 年生になったら、学校でさい高の 8 段に挑戦したいです。